

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500738

研究課題名(和文) グローバル化時代の「国家代表」像

研究課題名(英文) National Representative Team in the Era of Globalization

研究代表者

平井 肇(Hirai, Hajime)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号：70199032

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本、東南アジア・太平洋地域の事例を中心にグローバル化の時代のスポーツの「国家代表」像の現実と今後の課題について、インタビューやアンケート調査等を通して分析・検討した。その結果、「国家代表」像は時代とともに変容し、それぞれの国における各々の競技種目の位置づけ、社会、文化、政治、経済的環境によって異なることが明らかになった。調査結果を基に海外の研究協力者を招いてワークショップを開催し、意見・情報交換を行った。

研究成果の概要(英文)： The images of national representative teams among the people in Japan, the Southeast Asian and the Pacific region were analyzed through interviews to players and fans, and questionnaire survey to fans. It became evident these images have been changed in these countries, through historical transitions and popularity of the sports, and the social, cultural, political and economic conditions. The result of the research was discussed with overseas research partners at a seminar hosted by the researcher.

研究分野：スポーツ社会学

キーワード：スポーツ グローバル化 アイデンティティ ラグビー サッカー 野球 台湾 タイ

1. 研究開始当初の背景

スポーツは、20世紀中期から顕在化する「国家・国民の時代」の中で、次第に一部の地域や特定の社会階級の専有物から国家・国民の共有物となっていった。そしてオリンピックや競技別の世界選手権、オリンピックなどを目的に組織化された、「国家代表（チーム・選手）」の時代を迎えた。国際化の流れの中で、スポーツは国同士が競う場となり、「国家代表」はその象徴的存在となってゆくのである。一般的に、国家代表チームの構成単位は国家であり、その構成員たる選手・監督は国民であり、応援・支援するのは一般国民であると考えられているが、この構図は時代や国家がおかれている社会的背景、それぞれのスポーツ種目の普及過程や競技会の成立・発展の経緯などが複雑に絡み合っており、必ずしも共通で普遍的であるとは限らない。

20世紀後半からの科学技術の進歩や国際情勢の変化により、スポーツを取り巻く環境も大きく変化している。スポーツのスペクタクル化によって、プロ化やコマーシャル化が促進され、スポーツがますます生産的手段と見なされるようになってきた。グローバル化の流れの中で、スポーツに関係する人々の国境を越えた移動の活発化・多様化や、国境に関係なく瞬時に伝わる情報がスポーツと国家・国民の関係に大きな変化をもたらしている。そのような時代的背景の中で、「国家代表」の象徴的および実質的な意味や役割にも変化が生じてきた。この変化の根底には、「国家とスポーツの関係の変化」という基本的な構図の変化があるのではないかと考えられる。つまり、スポーツが自己目的の達成のために、「国家代表」なる称号や地位を利用する傾向が顕在化したと考えられる。

2. 研究の目的

私は、比較文化論と地域研究の視点から、グローバル化時代のスポーツに関係する諸問題・現象に関心を持ち、特に東南アジアと南太平洋地域のスポーツの伝播・受容・普及や、グローバルなスポーツの展開、特に国境を越えて移動する人々の関係を取り上げてきた。その中で、この地域におけるスポーツと国家・国民の関係に関心を持つようになった。

このような問題意識と個人的経験に基づき、本研究では、諸外国の事例を中心にグローバル化の時代における「国家代表」像の現実とそれを取り巻く社会文化的要因の関係について調査研究を行い、日本を含めた今後の「国家代表」像について考察した。

そのために、以下のようなサブテーマを設定して調査を行った。

- (1) 「国家代表」の意義と役割の時代的変遷と、競技種目と地域的特徴
- (2) スポーツを取り巻く環境要因と「国家代表」の関係
- (3) 一般市民のスポーツを取り巻く環境要因と「国家代表」の関係

3. 研究の方法

平成24年度：各サブテーマに関わって、基礎的資料の収集・解読、海外研究力者をはじめとした関係者との面接・協議を通して仮説を構築した。

平成25年度：各サブテーマに関わって構築した仮説に基づき、現地での聞き取り調査を中心に調査を実施した。

平成26年度：テーマ全体のまとめとして、インターネットによるアンケート調査を実施した。海外の研究協力者を招いてのワークショップで研究の総括とまとめを行った。

具体的な研究活動は、以下の通りである。

- (1) オーストラリア、タイ、台湾、フィジ

一等で関係者へのインタビューの実施、セミナーへの参加、大学での特別講義などを通して、スポーツにおける「国家代表像」について情報交換を行い、資料の収集を行った。

(2) インターネットによる多国間アンケート調査の実施：海外の研究協力者の協力を得てインターネットによるアンケート調査を実施した。対象としたのは、台湾、タイ、マレーシア、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド、フィジーの主としてスポーツ科学を専攻する学部生や院生、約550名であった。その結果を分析し、スポーツのシンボリックな意味と国家へのアイデンティティの関係についての国際比較を行った。

(3) 研究協力者によるワークショップの実施：研究協力者を招聘してグローバル化時代の「国家代表像」をテーマにワークショップを実施した。アンケート調査の結果をベースに、分析と検討を行うと同時に、参加者が滋賀大学に在籍する日本人およびアジアからの留学生である学部生や大学院生を対象に、各国の実情について紹介してもらった。

(4) 研究協力者の所属機関での研究成果の発表：海外の研究協力者が所属する大学に赴き、スポーツ科学を専攻する大学院生を対象に、本研究の成果を報告し、情報・意見交換を行った。訪問した大学は、台湾・国立台湾師範大学、タイ・チュラロンコーン大学、マレーシア・マラヤ大学である。

4. 研究成果

「国家代表」の意義と役割の時代的変遷と、競技種目と地域的特徴に関しては、南半球の英連邦諸国と東南アジアに焦点を当てて研究を進めた。オセアニアではラグビー、東南アジアではサッカー、台湾では野球が国家意識のシンボリックな役割を果たしていた。

時代的変遷に関しては、オーストラリアのケースがもっとも顕著で、多文化・多民族国家への変容の過程で、サッカーやラグビーなどのメジャースポーツでは、国家代表チームの人種・民族的構成も変化し、マルチカルチャリズムのシンボルとしてとらえられるようになった。地域的特性としては、近隣諸国とのスポーツ交流の機会が増している東南アジアで、SEA GAMESを通して国家意識の芽生えが顕著であった。

選手の国家代表観については、ニュージーランドやフィジーのラグビー、オーストラリアのサッカーで興味深い現象が見られた。つまり、選手としての自分の価値を高めるために、競技レベルの高い選手ほど国境を越えた移動を頻繁に行い、場合によっては国籍を変更に対してもさほど抵抗がなくなっている。このことに対する国民の反応は、選手を送り出す側も受け入れる側も、経済的な側面からは不可避であると理解しているが、感情的には否定的な反応も目立ち複雑である。

一般市民の国家代表観は、調査を行った国々が置かれている国際的状況や、スポーツの人気度などによって、かなりの違いが見られた。また、アンケート調査を通して、国家の政治的な意図やマスメディアの誘導的操作のような外的な要因が、市民の国家代表観に大きな影響を与えていることが伺えた。

具体的にはタイやシンガポールでは、SEA GAMEでの、特に人気種目でのメダル争いが大きな関心事となっており、フィジーでは、優秀な選手が国籍を変更することに対して、ラグビー協会が危機感を抱いている。また台湾では、野球が国家の国際的プレゼンスを高める役割を担っている事実が再確認できた。

日本では、サッカーが国家代表（選手、チーム）への関心としては一番高く、野球への関心はそれほど高くなかった。前者がグロー

バルスポーツで、ワールドカップやオリンピック等の国際的なイベントが多いのに対して、後者は国家代表チーム同士が対戦する機会が少ないことが関係していると思われる。

選手の国籍変更に関しては、人気の高い種目と日本発祥のスポーツでは関心が比較的高く、肯定的な意見が多かった。全体的には、日本は他国、特にタイやマレーシア、台湾などと比べて、スポーツを国家へのアイデンティティ形成の場としてとらえる傾向はさほど高くなく、むしろ否定的・懐疑的な反応が多かった。

以上の調査結果から、スポーツの「国家代表」像は時代とともに変容し、それぞれの国における各々の競技種目の位置づけ、社会、文化、政治、経済的環境によって異なることが明らかになった。またグローバル化の進む中でも、スポーツ、特に「国家代表（選手、チーム）」は、国家に対するアイデンティティの形成の点で、ある一定の役割を果たし続けるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

Hajime Hirai, 'An Indispensable but Fragile Geopolitical Triangle: Baseball in Japan, Korea and Taiwan' *The International Journal of the History of Sport* Volume 29, Issue 17, pp. 2465-2477, 2012

[学会発表](計1件)

Hajime Hirai, National Representative Team in the Era of Globalization: In the Case of Rugby's Japan National Team 基調報告 2014 年運動休閒與餐旅管理國際學術研討會 中華民國台北市 國立台灣師範大

學 2014 年 5 月 17 日

[図書](計2件)

平井肇 「グローバル化の光と影」 井上俊・菊幸一編 『よくわかるスポーツ文化論』

ミネルヴァ書房 pp.150-151, 2012

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

<http://www.edu.shiga-u.ac.jp/~hirai/Heemskerck.htm>

6. 研究組織

(1)研究代表者

平井 肇 (HIRAI HAJIME)

滋賀大学・教育学部・教授

研究者番号: 70199032

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号

様式 C - 19、F - 19、Z - 19 (共通)